

## 1.7 線型写像

定義 1.33  $U, V$  を  $R^3$  または  $R^2$  の部分空間とする。  $U$  から  $V$  への写像  $T$  線型写像 (linear map) であるとは次の 2 つの条件を満たす事である。

- (1) 任意の  $u, v \in U$  に対し  $T(u+v) = T(u) + T(v)$  が成立する。
- (2) 任意の  $v \in U$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $T(\alpha v) = \alpha T(v)$  が成立する。

命題 1.34  $T : U \rightarrow V$  を線型写像とする。このとき  $T(0) = 0$ ,  $T(-x) = -T(x)$  が成立する。

証明  $0+0=0$  なので  $T(0+0) = T(0)$  が成立する。  $T$  が線型写像という事から  $T(0+0) = T(0) + T(0)$  なので,  $T(0) + T(0) = T(0)$  の両辺から  $T(0)$  を引くと  $T(0) = 0$  を得る。

$(-1)x = -x$  及び  $(-1)T(x) = -T(x)$  が成立しているので,  $T(-x) = T((-1)x) = (-1)T(x) = -T(x)$  となる。 ■

命題 1.35  $T : U \rightarrow V$  を線型写像とする。  $\text{Ker}(T) = \{u \in U \mid T(u) = 0\}$ ,  $\text{Im}(T) = \{v \in V \mid v = T(u), u \in U\}$  とおくと,  $\text{Ker}(T)$ ,  $\text{Im}(T)$  は部分空間である。  $\text{Ker}(T)$  を線型写像  $T$  の核 (kernel),  $\text{Im}(T)$  を線型写像  $T$  の像 (image) という。

証明  $W$  が部分空間であるためには  $W$  が, (1) 空集合でない, (2)  $W$  の任意のベクトルの和がまた  $W$  に含まれる, (3)  $W$  の任意のベクトルの任意の実数倍がまた  $W$  に含まれる, の 3 つの性質を持てばよかった。それぞれについてチェックすればよい。

まず最初に  $\text{Ker}(T)$  について: (1)  $T(0) = 0$  なので,  $0 \in \text{Ker}(T)$  である。よって  $\text{Ker}(T) \neq \emptyset$  である。(2)  $u, v$  を  $\text{Ker}(T)$  の任意のベクトルとすると,  $T(u) = 0, T(v) = 0$  が成立している。このとき  $T(u+v) = T(u) + T(v) = 0 + 0 = 0$  となり  $u+v \in \text{Ker}(T)$  が分かる。(3)  $u$  を  $\text{Ker}(T)$  の任意のベクトル,  $\alpha$  を任意の実数とする。  $T(u) = 0$  より,  $T(\alpha u) = \alpha T(u) = \alpha 0 = 0$  となり,  $\alpha u \in \text{Ker}(T)$  が分かる。

次に  $\text{Im}(T)$  について: (1)  $0 \in U$  なので  $T(0) \in \text{Im}(T)$  であるが,  $T(0) = 0$  なので,  $0 \in \text{Im}(T)$  である。(2)  $x, y$  を  $\text{Im}(T)$  の任意のベクトルとする。定義より  $U$  のベクトル  $u, v$  が存在して,  $x = T(u), y = T(v)$  となる。  $u+v \in U$  であり,  $T(u+v) = T(u) + T(v) = x+y$  となるので,  $x+y \in \text{Im}(T)$  となる。(3)  $x$  を  $\text{Im}(T)$  の任意のベクトル,  $\alpha$  を任意の実数とする。ある  $U$  のベクトル  $u$  が存在して  $x = T(u)$  となる。このとき  $T(\alpha u) = \alpha T(u) = \alpha x$  となるので,  $\alpha x \in \text{Im}(T)$  となる。 ■

例 1.36 3 次行列  $A$  に対し  $R^3$  から  $R^3$  への写像  $T_A$  を  $T_A(x) = Ax$  で定義すると,  $T_A$  は線型写像であった。

$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}$  とする。この行列  $A$  に対し  $\text{Ker}(T_A)$  と  $\text{Im}(T_A)$  を求めてみよう。

$x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \text{Ker}(T_A)$  とすると,  $Ax = 0$ , 即ち  $y + 2z = 0, x + 2y + 3z = 0, 2x + 3y + 4z = 0$

このプリントも含め講義関連のプリントは <http://math.cs.kitami-it.ac.jp/~kouno/kougi.html> においてある。

が成立しなければならない。この式達より  $x - z = 0, x + y + z = 0$  を得る。逆にこの条件のとき  $\mathbf{x} \in \text{Ker}(T_A)$  となる。

よって

$$\text{Ker}(T_A) = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x - z = 0, x + y + z = 0 \right\}$$

となる。 $\text{Ker}(T_A)$  を生成元を用いて書き表す事もできる。 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  を  $\text{Ker}(T_A)$  の任意の元

とする。このとき  $z = x, y = -x - z = -2x$  なので  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ -2x \\ x \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}$

となる。逆に任意のベクトル  $\mathbf{x} \in \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$  に対し  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}$  とすると、

$x_1 = \alpha, x_2 = -2\alpha, x_3 = \alpha$  となるので、 $x_1 - x_3 = 0, x_1 + x_2 + x_3 = 0$  を満たし  $\mathbf{x} \in \text{Ker}(T_A)$  が

分かる。よって  $\text{Ker}(T_A) = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$  となる。

$\mathbf{y} \in \text{Im}(T_A)$  のとき、 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3$  が存在して  $\mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$  と書ける。

$$\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix} = 2 \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} \text{ なので,}$$

$$A\mathbf{x} = x \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix} = (x - z) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + (y + 2z) \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

と書ける。逆に  $\mathbf{y} = p \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + q \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$  の元に対し  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} p \\ q \\ 0 \end{pmatrix}$  と置くと  $\mathbf{y} = T_A(\mathbf{x})$  なので、

$\mathbf{y} \in \text{Im}(T_A)$  である。

$$\text{Im}(T_A) = \left\{ \mathbf{y} \in \mathbf{R}^3 \mid \mathbf{y} = p \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + q \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, p, q \in \mathbf{R} \right\} = \left\langle \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \right\rangle$$

となる。

$$\text{Im}(T_A) \text{ を生成元を用いないで表す書き方もある。} W = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \mid x_1 - 2x_2 + x_3 = 0 \right\}$$

とおく。任意のベクトル  $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \text{Im}(T_A)$  に対し  $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = p \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + q \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$  と書けるので,  $x = q, y = p+2q, z = 2p+3q$  が成立している。このとき  $x-2y+z = q-2(p+2q)+2p+3q = 0$  となるので,  $x \in W$  となり,  $\text{Im}(T_A) \subseteq W$  が成立している。逆に任意のベクトル  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in$

$W$  に対し  $(x_2 - 2x_1) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ 2x_2 - 4x_1 + 3x_1 \end{pmatrix}$  において  $x_3 = 2x_2 - x_1$  を用

いると  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = (x_2 - 2x_1) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} + x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$  となり  $x \in \text{Im}(T_A)$  が成立する。よって

$W \subseteq \text{Im}(T_A)$  となる。以上により  $\text{Im}(T_A) = W = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \mid x - 2y + z = 0 \right\}$  となる。

**演習問題 1.29** 次の行列で表現される線型写像  $T_A$  に対し  $\text{Ker}(T_A)$  及び  $\text{Im}(T_A)$  を求めよ。

$$(1) A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 3 & 0 \end{pmatrix} \quad (2) A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 3 & 2 & 8 \\ 2 & 1 & 5 \end{pmatrix}$$

$$(3) A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 2 & 0 & 0 \\ 3 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad (4) A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

**演習問題 1.30**  $U, V, W$  を  $\mathbb{R}^3$  の部分空間とする。  $T: U \rightarrow V, S: V \rightarrow W$  を線型写像とすると, 合成写像  $S \circ T$  も線型写像であることを示せ。

$T: U \rightarrow V$  が上への 1 対 1 写像であるとき, 逆写像  $T^{-1}$  も線型写像であることを示せ。

**命題 1.37**  $T: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を線形写像とする。このとき 3 次行列  $A$  が存在して任意のベクトル  $v$  に対し  $T(v) = Av$  が成立する。この行列  $A$  を線型写像  $T$  の表現行列という。

$T: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3, S: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を線形写像とする。  $A$  を  $T$  の,  $B$  を  $S$  の表現行列とする。このとき  $BA$  は  $S \circ T$  の表現行列である。

**証明**  $e_1, e_2, e_3$  を基本ベクトルとする, 即ち  $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  とする。

$\begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{21} \\ a_{31} \end{pmatrix} = T(e_1), \begin{pmatrix} a_{12} \\ a_{22} \\ a_{32} \end{pmatrix} = T(e_2), \begin{pmatrix} a_{13} \\ a_{23} \\ a_{33} \end{pmatrix} = T(e_3)$  とおき,  $A = (a_{ij})$  とおく。このとき任

意のベクトル  $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  に対し  $T(x) = Ax$  が成立する事を示す。  $x = xe_1 + ye_2 + ze_3$  と表す事

ができるので,  $T(x) = T(xe_1 + ye_2 + ze_3) = T(xe_1) + T(ye_2 + ze_3) = T(xe_1) + T(ye_2) + T(ze_3) =$

$$xT(e_1) + yT(e_2) + zT(e_3) = x \begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{21} \\ a_{31} \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} a_{12} \\ a_{22} \\ a_{32} \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} a_{13} \\ a_{23} \\ a_{33} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

となる。

$T$  の表現行列を  $A$  とすると任意のベクトル  $x$  に対し  $T(x) = Ax$  が成立する。 $S$  の表現行列を  $B$  とすると任意のベクトル  $x$  に対し  $S(x) = Bx$  が成立する。このとき任意のベクトル  $x$  に対し  $(BA)x = B(Ax) = S(Ax) = S(T(x)) = (S \circ T)(x)$  となる。■

例 1.38 写像  $T$  を  $z$  軸に関する  $\theta$  回転とする。 $u$  と  $v$  が張る平行 4 辺形の対角線で与えられるベクトルが  $u + v$  である。この平行 4 辺形を  $\theta$  回転させて得られる平行 4 辺形は  $T(u)$  と  $T(v)$  によって張られている。この対角線は  $T(u) + T(v)$  であるが、これは  $u + v$  を  $\theta$  回転させた  $T(u + v)$  である。よって  $T(u + v) = T(u) + T(v)$  が得られる。同様に  $T(\alpha v) = \alpha T(v)$  が分かる。 $T$  は線型写像である。

$T$  を表現する行列を  $A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix}$  とする。 $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$  を  $T$  で写したものは  $\begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \\ 0 \end{pmatrix}$  であり、 $e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  を  $T$  で写したものは  $\begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \\ 0 \end{pmatrix}$  であり、 $e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  を  $T$  で写したものは  $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  である。 $T(e_1) = \begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{21} \\ a_{31} \end{pmatrix}$ ,  $T(e_2) = \begin{pmatrix} a_{12} \\ a_{22} \\ a_{32} \end{pmatrix}$ ,  $T(e_3) = \begin{pmatrix} a_{13} \\ a_{23} \\ a_{33} \end{pmatrix}$  なので

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

が分かる。

演習問題 \*1.31  $x = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  とする。 $x$  を軸にした  $\theta$  回転で与えられる写像を  $T$  とする。このとき  $T$  の表現行列を求めよ。